

田老地区復興まちづくり計画（素案）内覧会等に出た意見のまとめ

■2. 復興まちづくりの目標 (2) 地区の復興まちづくりの方針 ①土地利用の方針

○移転対象 【一部移転、全戸移転についてそれぞれ賛否のご意見がありました。】

- ・嵩上げしても津波で大きい被害となる可能性がある、海の近くに住宅を建ててしまう恐れがあるなどから、全戸移転が望ましい。
- ・被災者住宅全員の高台移転を希望。
- ・現在元の住宅に住んでいる方から全戸移転になると浸水区域外は全く自力で移転しなければならないのは厳しいため、全部移転に反対。
- ・大きな嵩上げや防潮堤より、最小限にし、情報伝達の確実性、食糧、水等の備蓄充実を図るべき。・集団移転には反対。

○移転先【移転先について、素案の候補地先の追加や移転先の内容に関するご意見がありました。】

- ・高台移転先は、乙部高台（越田）地区、古田地区に加え、櫛内等。
- ・できるだけ近くの高台がよく、古田、グリーンピア等は遠すぎ、古田は池があって不適で、小学校の裏が岩盤でよい。
- ・移転して、分散するのは二つぐらいならやむを得ないが三つや四つに地区が分断されるのは反対、2 線堤の山側も半分に削るのは反対。
- ・分散しても、コミュニティバスなど、小さな集落をつなぎ合わせる工夫が大切。
- ・高台には学校、病院、公共施設、金融機関、商店等の施設がほしい。
- ・補助金や買取を利用して高台移転を希望する。

○土地利用【各地区別に、素案は異なる意見や、追加の意見等がありました。】

（国道 45 号の山側）

- ・（45 号山側の嵩上げ計画のところに住んでいる方、国道 45 号と 2 線堤山側の条件付き可住地に該当する方からも）嵩上げより高台移転。
- ・嵩上げ地への住居希望者のみを一区画に集約し、その区画の必要面積のみを嵩上げすべき。その他の他はその他の非可住地と同じ扱いにすべき。
- ・土盛りをするなら堤防の内側は全部行うべき。野原、向山地区を除いて地区内を出来るだけ使えるように。
- ・嵩上げしない地区は、嵩上げの圧迫感が心配。

（国道 45 号と 2 線堤の間）

- ・津波に耐えたとしても火災が発生すれば逃げ場がどこにもなくなってしまうので、そういう所にグループホーム等を設置するのは怖い。

（野原、野中地区）

- ・野原は公園のほうが良い。野中は水産加工団地や I. C. も近いので、生産施設がよい。（野原地区を三王を加えての観光拠点に）

（その他 — 施設の集約化やコンパクト化等）

- ・インターチェンジの予定を中心に学校、企業など各分野の集約（インフラ整備も）。
- ・幼児施設を集約し（こども園など）利便が良い高台に移転。
- ・イベントなどが出来る野外公園を整備。
- ・広場を中心に商業地、店舗、その近くに（高齢者、体に障害のある者等）見守りが必要な人々

が居住し、観光客が素通りではなく、広場に集う住民と会話や、買い物が楽しめるようなイメージの街づくり。

- ・全国の街作りの良い手本となるようなコンパクトシティ。
- ・自家用車を持たない高齢者は、衣食を確保できる商業地に隣接する場所に居住する、居住地と商店街は同時進行で建設すべき。

(その他)

- ・乙部、青砂里も盛土して住めるように。<※第 3 回検討会資料のとおり宅地造成等の技術的検討から難しいと考えられます。>

■2. 復興まちづくりの目標 (2) 地区の復興まちづくりの方針 ②道路、防災等の施設配置の方針

○防潮堤【すでに県方針としてお伝えした事項ですが、ご提案、ご意見がありました。】

- ・野中地区の堤防を国道レベルまで整備（減災対策）、防潮堤は 14.7m では低すぎる、赤沼川を水が逆流しないような形にする 等。

○道路【国道 45 号のルート、アクセスに関するご意見がありました。】

- ・国道 45 号も別ルート、三鉄駅も津波が来ない場所に。<※三鉄駅ホームは浸水していません>
- ・国道の嵩上げについては賛成
- ・国道 45 号からスムーズに帰宅できる道路の整備

○避難場所、避難タワー、ブリッジの整備【内容追加のご意見がありました。】

- ・田老の地形では避難タワーやブリッジなどより、防災教育と避難所の適正配置・設備の充実を図る必要。
- ・田老地区の今後予定される避難場所への堤防からの歩道橋の整備、裏山に逃げやすいよう階段や切れ間を多くするなど対策を計画に追加。<※素案「道路、防災等の施設配置の方針図」にはすでに記載されています。>

○その他

- ・津波記念館を津波がおこった時のモデルケースにしては。水に浮く建物、鉄骨の強度を試すなど。<※素案「道路、防災等の施設配置の方針図」に名称のみ記載しています。>

■4. 導入事業及びスケジュール

- ・仮設住宅の入居できる期限が 2 年間であるのに対し、住宅再建できる時期が 5 年後ではどう住まいを確保すればよいか。<※素案には、早期住宅建設や仮設住宅のメンテナンスへの配慮については記載済です。>

■その他、素案内容以外に関するご意見

- ・田老地区全体のアンケートを早く取るべき
- ・若い人（子供も含めて）の意見にも耳をかたむけてほしいと思います。
- ・住宅地は平面図ではなく立体図で示してほしい。
- ・土地利用はみんなで考えるべき！漁業関係、農業関係、商業関係その他もろもろの（働いて行きたい）人での話し合いの場を！
- ・産業活性化事業（水産業、観光業等）については取り組みがおそい。
- ・災害時に使用できる自動販売機を宮古市の各地に作ってほしい
- ・物資（布団、食料など）の保管、手動のサイレン、拡声器の常備（連絡員、自治会長など）
- ・トイレの検討（仮設トイレをすぐ設置できるように）
- ・災害時の地区連携を強化。